

令和元年度手づくり郷土賞 受賞 ～全国24件中徳島県内は2件受賞!～

地域の個性、伝統、文化を利活用し、魅力ある地域作りに成功している活動を国土交通省が表彰する「手づくり郷土賞」に、令和元年度は、徳島県内の沖洲海浜楽しむ会と徳善襖絵からくり舞台実行委員会が受賞しました。12月14日には東京で全受賞者による発表会が行われ、惜しくもグランプリ受賞には至りませんでした。徳島県内での取り組みについて全国に広くPRできたと思います。

令和2年2月～3月には四国地方整備局長から認定証の授与が行われる予定です。詳細は国土交通省HPよりご確認頂けます。

小松島みなと交流センター交流スペースがオープン!

執筆：小松島市役所 商工観光課

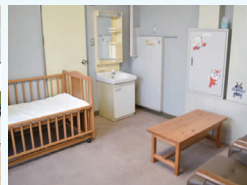
小松島市が小松島みなと交流センターkocolo(旧フェリーターミナル)でかねてより準備を進めてきた、学生を中心とした若者と地元企業との交流拠点が完成し、11月25日にオープンしました。室内には、無料Wi-Fiを完備しており、小松島港を眺めながら学習・業務作業が行えるワークスペース、ひな壇を設置しセミナーが行えるイベントスペース、モニターを利用しながら会議が行えるミーティングルームがあり、用途により使い分けが可能となっています。

今後は、こちらを若者と企業を結ぶ交流拠点とし、産業振興や中心市街地の活性化等、多様な地域課題について学生・企業を巻き込み解決につなげていきます。

また、交流スペースに加え、1階のカフェ「メーヴェ」内に授乳室が新たに設置されております。様々な用途でみなと交流センターを利用頂けるように、今後とも工夫を続けて参ります。



ワークスペース



授乳室

港お仕事取材 第二回 ～より小松島市を楽しんでもらうために～

皆さんは港に携わる仕事についてどれくらい知っていますか?本コーナーでは、港に携わる方々の仕事について、数回に分けて紹介します。前号に引き続き昨今話題のクルーズ船の対応に奮闘している方々に取材しました。今回は、小松島市商工観光課の方々から、クルーズ観光客の満足度を向上させる取り組みについて紹介します。

Q1 クルーズ船寄港にあたって、どのようなお仕事をされていますか?徳島県との仕事の違いは何ですか?

A 私たちはクルーズ船寄港時のテント等の設営や、物品販売の補助、お出迎え・お見送りイベント、小松島市内を楽しめるツアーの企画を行っております。基本的には、徳島県と協力して、クルーズ船のおもてなしをしております。

Q2 クルーズ船寄港時の対応で、苦労したことはありますか。

A クルーズ船が小松島市内の岸壁に寄港しても、小松島市内を観光する乗船客が少ないということに苦労しております。理由として、小松島市内の岸壁(特に赤石地区)は中心市街地から遠く、徒歩圏内で巡れる観光地が少ないこと、ツアー会社の企画する有料バスツアー(正式名称:オプションツアー)は観光名所の多い鳴門市や徳島県内に行くことが大きな要因であると感じております。

Q3 クルーズ船乗船客に小松島市を楽しんでもらうために工夫していることはありますか。

A 例えば、今年徳島小松島港に初寄港した「MSCスプレディダ」には、小松島市内を循環する無料バスを調達し、あいさい広場をツアーの中心とした特産品の抽選会、人形浄瑠璃、乗馬体験コーナー、銭湯の割引や銭湯行きのシャトルバスを設け、あいさい広場でのイベントを掲載した無料バスツアーパンフレットを作成し、下船客に配布したことや、徳島県内の特産品や観光名所を私ども職員が紹介するプロモーションビデオをバス内で流したりしました。

その結果、「MSCスプレディダ」が初めて寄港したときは乗船客約3000人中600人程度しか小松島市内を観光してもらえませんでした。3回目以降の寄港では1200人以上がツアーに参加して頂けるようになりました。

Q4 やりがいを感じたことは何ですか?

A トライ&エラーを重ね、小松島市を観光する乗船客数が増えたり、バス内で流したビデオやパンフレット等、われわれの工夫に満足したという意見が少しずつ増えてきていることにやりがいを感じています。

また、地域ボランティアや市と連携協定を結んだ民間の方からアイデアを頂いたり、地域の学生に物品販売や外国人の通訳、お見送りイベントに参加していただく等、様々な方々の協力の上で成り立っており、彼らと一体となって地域を盛り上げているという感覚が我々職員にやりがいを与えてくれています。

今後も、地域の方々と力を合わせて、クルーズ船観光客を満足させ、地域活性化に貢献していきたいです。



クルーズ船観光客で賑わうあいさい広場



お遍路体験コーナー(学生と市役所職員が協力)